

R元. 10. 11 未就学児意見交換会

出席者 14人※託児2人

町教育委員会：森教育長

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・永井指導主事・寺口指導班長（書記）

1. 開会

10:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校について」

・部長「小中学校での意見交換会の意見について」

学区について・通学路について・単級化について・通学距離について・
学校の施設について・グラウンドの使用について・新設校について・2回
目の意見交換会について

・課長「今出ている案について」

7案について

4. 意見交換

越地地区住民：今示されている案の2つの円はバランスが取れていないと思います。子どもの人口バランスも考えられていないし、山坂のことも考えられていない。最終的に1校を残すのであれば、山西に残すのがバランスが取れていると思います。途中経過で、2校にするのであれば、二宮小学校と山西小学校を残すのがいいのではないのでしょうか。二宮小学校区は開発でまだ人口が増えていて、その受け皿としても山西小学校がいいのではないのでしょうか。一色小学校はこれから子どもが見込みもないですし、辺鄙な所にあつて、山坂もあるので、そこに残すというのは、単級化もしていますし、校舎も古いので、おかしいと思います。山西小学校にすれば、町民運動場を使えば部活の心配もないので、一番いいのではないかと思います。

部長：教育委員会としては、よりよい教育を目指して、小中一貫教育校を作っていきたいと考えています。40年後、50年後には1校になっていくとは思いますが、今目指しているのはより子どもたちにとって良い教育環境として、

施設一体型の小中一貫教育校を目指していきたいと思っています。将来を見越して考えていかなければいけないということも、地域にとって、学校が大事なものは、良く分かっていますので、地域とのつながりは大事だと思っています。

越地地区住民：2校ということにこだわってはいないのでしょうか。

部長：2校にこだわっているわけではありません。

越地地区住民：3校になった場合、予算的には大丈夫なのでしょうか。

部長：今現在は5校ありますので、5校が3校になれば、2校分は減らすことが出来ます。

越地地区住民：改修する予算は大丈夫なのでしょうか。

部長：改修する費用と今運用していて、実際にかかっている費用とをよく検討していかなければいけないと考えています。

越地地区住民：それは、例えば西中を失くした場合、西中を売るという事でしょうか。放置した場合、お金は入らないですし、維持費がかかってしまうと思います。

部長：使わなくなった土地を住宅地等にするなども一つの方法ではあると思います。今、具体的にそのような話が出ているかという点、そこまでの話が出ていません。例えば、山西小学区は山西小学校と二宮西中学校と2つの学校がありますので、地域の方のご意見を伺わせていただいて、山西小学区であれば、山西小学校と二宮西中学校のどちらを残すのが、子どもたちにとっても、地域の方にとってもいいのかを決めていきたいと思っています。

元町北地区住民：一色地区の子どもたちなど、一部の子どもたちは、どこに通うにしても遠いと思うのですが、スクールバスは考えているのでしょうか。

部長：今、片道2キロの円をお示ししましたが、国が示しているのは小学校4キロ、中学生6キロというのが通学の範囲として示しています。しかし、小学生に4キロ、中学生に6キロを歩かせるのは山や坂等もありますので、大

変なので、二宮町では半分の 2 キロで考えています。その範囲の中に入れて徒歩でいいと思っていますが、一色地区の二宮中学校へ通っている生徒は、自転車通学が多いと思いますが、バスなどの公共交通機関などを使って通学している生徒もいます。通学補助を出している市町村もあります。しかし、そういう自治体は通学距離が 4 キロ・6 キロを超えています。しかし、温度などの環境等も変わってきていますので、今、具体的には示すことは出来ないのですが、検討していきたいと考えています。

教育長：秦野市では、通学距離が 6 キロ以上あったので、朝だけスクールバスを出していました。今回の説明の中で、地図に赤く○を付けていた部分は遠いので、通学手段を考えていかなければいけないと思っていました。これから、案を色々出していただき、きちんと皆さんの意見を聞いて、案をまとめていきたいと考えています。意見交換会でいただいた全ての案を検討させていただいて、また意見交換会をさせていただき、最終案がまとまればいいと思います。それぞれの地区の方が学校を残して欲しいと思うのは当然だと思います。地元の方の意見もきちんと聞き、未就学の方には本当に現実問題なので、きちんと意見を聞かせていただきたいです。小中一貫教育校を 3 つにするとしたら、中学校を 1 校増やすことになってしまうので、十分検討していかなければならないと考えています。後々の 50 年後ぐらいに 1 校になることも考えていかなければいけません。今現在の子どもたちが困っている問題を考えていきたいと思っています。二宮町の子どもたちが安心して歩けることが出来ないと考えている方もいらっしゃるかもしれませんが、二宮町の子どもたちが安心して町を歩くことが出来るような、みんなで子どもたちを守ることが出来るような街を作っていきたいと思っていますので、地域の方の力を借り、コミュニティ・スクールを始めました。そして異年齢の子どもたちと交流することによって、お兄さん・お姉さんのいう事を聞くのは当たり前子どもたちを育てていきたいと考えています。

越地地区住民：町の将来や人口の事を考えたときに、海の近くの二宮小学校、山坂の多い一色小学校を残すのは、町の移住促進の魅力になるのでしょうか。なぜ山西小学校と二宮西中学校が出来たかを考えると、二宮小学校では抱えきれないほど人口が増えたということでした。山西は山坂もないですし、国道にも面していて、不便を感じたことはありません。一色の方に行くと、ここを子どもが通うのかとびっくりしてしまいました。二宮小学校と一色小学校に学校を残すことで、町外の方が二宮町を魅力的だと思ってくれるのでしょうか。将来的に定住促進を町が掲げていること、町づくり

の観点から教育を考えたことはあるのでしょうか。

教育長：町づくりのことについても考えています。山西小学校と二宮西中学校のどちらかに学校を残した方がいいというご意見をいただき、二宮小学校の子どもが増えているという事も言われていらっしゃいましたので、学区の再編をした方がいいというご意見をいただいたと考えて良いでしょうか。

越地地区住民：それはもちろんいいと思います。

教育長：そういったことも含めて、2周目の意見交換会に向けて案を考えていきたいと思います。今回意見交換会で色々なお話を聞きまして、2校案は無理ではないかと感じましたので、山西小学校か二宮西中学校を残したいというご意見は受け止めましたので、そのような色々なご意見をいただきたいと思っています。学区の再編は非常に大きな問題で、例えば二宮小学校に通っていた子が山西小学校に通うのは嫌だという子もいるかもしれませんが、そこを乗り越えなければ、二宮町の将来の配置をすることが出来ません。学区の再編をやるべきだというご意見をいただいたということであれば、教育委員会として学区再編を進めることができます。

越地地区住民：昨年小中一貫教育についてのアンケートがありました。その後、5月に一色小学校と二宮中学校を残すという新聞記事を見て、びっくりしました。案ということも書いてありませんでした。

教育長：教育委員会議の中で、どういう風に考えていくかという案について話し合いを行ってきました。その案を話し合っていることを決まりましたと記事になってしまいました。

越地地区住民：山小と西中をなくして、一色に行くのか二小に行くのか、スクールバスにするのか決まっていない段階で、新聞報道や広報にも書かれていて、山小の地区としては、切り離された感じで、統廃合について思い悩んでいます。一色小学校が、耐久年数もなく、単級化もしていたので、なくなると思っていました。どこの学校にするにしても、なくすのであれば、その理由をきちんと示して欲しい。グラウンドが広いというのであれば、どれぐらい広いのか。学校がなくなるのであれば、優先的に公共施設が出来るとか、町民全体が納得できるような形を考えていただきたいです。山小の付近は治安があまり良くないので、廃校を放置されたら不安です。

教育長：廃校対策については、教育委員会として、きちんと対応するように伝えていきたいと思います。

越地地区住民：また、二中が最後に残るのであれば、津波対策をしていただくか、別の場所に移動して欲しいと思います。

部長：町の情報の発信の仕方ですが、6月号の広報でお知らせしましたが、記事の書き方に工夫が必要だったと感じています。案として示しているもので、これが決まったものではないということをきちんと分かるように示していきたいと思います。

越地地区住民：学校と一緒に新庁舎を考えていかなければ二宮町にとって大きな負担になってしまうと思いますし、防災拠点としても重要だと思いますので、教育委員会の方からも町長と一緒に進めるようにと進言していただきたいです。必ず空き校舎が出るのですから、学校単位で考えるのではなく、庁舎も含めて考えていくべきだと思うのですが、教育長はどうお考えでしょうか。

教育長：まずは子どもの事について考えることが、私の使命なので、通学距離のこととか、9年間を見通した教育が良いのか、校庭が狭くないのか等をまず考えなければいけません。それに伴って、校舎が空いた後をどうして欲しいというのを町長に相談する事は出来ますが、先にどの学区をどうするかというような意見をいただき、検討していきたいと思います。

元町北地区住民：子どもの安全と通う距離が重要だと思います。1年前に引っ越してきましたが、引っ越しを決めた一番の理由が二宮小学校が近いということでした。小中一貫教育よりも、通学距離の事の方が重要だと思います。山西小学校の不安感を解消してあげて欲しいです。小中が一緒になることによって、中1ギャップの解消などは分かりましたが、なぜ学力アップにつながるのでしょうか。中学受験をする子どもをおさえるという目的もあるのでしょうか。

教育長：これからの社会は子どもたちのコミュニケーション能力が重要だと考えています。知識や技術はAIなども発達しているので、補うことが出来ると思いますが、子どもに必要な力として指導要領にも書かれている通り、自分が相手とどう話しをして、どう理解して、それをどう構成して、それを相

手にどう返していくかという事が求められています。これからの教育は自分で何かを生み出し、受け答えをし、調整していくというAIには出来ない、人とふれあう力というのが重要だと思います。小さい子と遊び、少しでも多くの子どもたちが多くの子どもたちとふれあって、そのような力をつけていくことが大事だと考えています。中学受験については、カリキュラムを逸脱するという事はありません。ですから、中学受験で不利になることはありません。また、二宮から私立を受けさせないようにするために、小中一貫教育を行うわけではありません。

元町北地区住民：コミュニティ・スクールで、地域の方が学校に関わるということをおっしゃっていましたが、どういう風に関わっていただけるのか、ビジョンがわからないのですが。

教育長：子どもたちにゲストティーチャーとして、話をさせていただくというのが、最高レベルとしてはあると思うのですが、そこまでではなくて、地域の方が、朝おはようと声をかけていただくことが出来る、地域の方と小学生の顔がつながるといふ地域社会を作りたいと考えています。地域の方が「何年生？」と声を掛けたら、不審者だと思ってしまうような地域はおかしいと思います。地域の方が少しでも地域の子どもの顔を覚えていただくというのが、コミュニティ・スクールの原点だと思っています。例えば、地域の一人暮らしのお年寄りの方と一緒にご飯を食べたり、地域の方と顔がつながっていて、本当の不審者に子どもが声を掛けられていたら、気が付いて声を掛けてあげられるというのが大事だと思っています。

元町北地区住民：登校班の子どもたちにおはようと声を掛けても、返事が返ってこないんです。すごく驚きました。子どもに聞くと、年上のお兄さんお姉さんが挨拶しないからしないということでした。また、地域の人に声を掛けられることがないそうです。コミュニティの基本は、挨拶だと思います。いつからなんだろうなと思ってしまいました。

教育長：昔は、地域の子どもの近所の大人たちが叱っていました。今は、保護者が子どもをなんで叱るんですかというような風潮が出てきてしまいました。ですから、声を掛けなくなってしまいました。83運動ということで、散歩をしたり、買い物をしたりするのを、8時とか3時にしてほしいと呼びかけていく必要があると思っています。子どもたちに声を掛けると、不審者だということで、マチコミメールに流れてしまったりします。子どもたちを地域

で見守っていくためにも、地域の方と顔が繋がっていることが大切だと思っています。

越地地区住民：学区を超えて、子どもたちが交流する機会があると思うのですが、例えば子ども会がコミュニティ・スクールに関わっていくことはこれからあるのでしょうか。

教育長：コミュニティ・スクールは地域の中で、どのようにしても構わないものです。学校運営協議会の中で、そのような集まりを構成して、子ども会の活動を使って連携していくことも可能です。

越地地区住民：中学生の集まりである恵友会とも一緒に行って欲しいです。

元町北地区住民：地域の方と話をしたときに、責任がどこにあるのか、はっきりさせてほしいというお話を聞きました。協力したいのだけれど、何かあった時に、責任が自分たちが負わなければいけないのではないかと不安に思っていますので、そこをはっきりさせてほしいと言っていました。また、お年寄りが自分から子どもたちに声をかけるのは難しいと思います。子どもが1回来てくれれば、応えてくださると思うのですが、学校で地域の高齢者の所を訪ねていくとか、SOSの家に挨拶に行くなど、子どもからアクションをかけなければ、ボランティアの募集をしても集まらないと思います。挨拶をしても返ってこない子どもをかわいいとは思わないと思います。子どもから行かないと何も変わっていかないと思います。

教育長：学校でも挨拶運動を行っています。学校でも挨拶はとても重要だと考えています。

元町北地区住民：今でも学校の中だけではなくて、挨拶運動は行っているのでしょうか。

教育長：行っています。

元町南地区住民：子どもが二小は増えていると思います。何年度から統合していくのでしょうか。減っていくことだけを考えていて大丈夫なのでしょうか。二宮中学校が、小学生と中学生を受け入れるだけの教室があるのでしょうか。どのくらいの数になるかも分からない中で、先生たちの数は足りるのです。

ようか。二小は学校がせまいと感じています。3クラスになったときは、参観日に保護者が教室に入りきれませんでした。これから、パソコンなどの専門の教室を増えていくと思います。今使っている教室プラス専門の教室を確保していくことは出来るのでしょうか。

部長：二宮小学校は新しく開発されていることもあって、これからも少し増えていくことが予想されます。二中と一体型になるのは、同じ時期とはならないかもしれませんが、3つの小学校区に1つは学校を残すと考えた場合、学区の見直しも考えています。二宮小学校に現在通っている子が山西小学校に通ったりということも考えていますので、それによって、人数は変わってくると思います。今、二宮中学校の教室はいっぱいいっぱいではありません。特別教室が集まっている特別棟もありますので、教室が足りないような状況ではありません。昔は二宮中学校は千人以上の児童がいました。それで、教室が足りなくなってしまう為、二宮西中学校を作りました。小中一貫教育校になる時期は変わってくるかもしれませんが、方向性としては、小中一貫教育校にしていきたいということです。

課長：文部科学省が言っている、学校の適正規模は12から18クラスです。小学校だったら、1学年2クラスから3クラス、中学校だったら、1学年6クラスまでという規模です。最大で20学級を超えないように考えています。そうすると、一体型になれるのは、令和12年ぐらいかと思います。平成31年度は、二宮小学校は611人、二宮中学校は314人、これが令和12年度になると、独立社会人権保証研究所、社人研というところが出している数字だと二宮小学校は381人、二宮中学校は220人まで減るのではないかと言われています。ですから、2つを一緒にしても、18クラスを超えないと想定しました。なので、特別学級や、特別教室などはあっても、今の状況よりクラス数が増えることはないようにしていきたいと考えています。

越地地区住民：二小の体育館がボロボロで、雨染みがあったり、ベニヤ板が貼ってあったり、この体育館をどのくらい使う見込みなののでしょうか。

部長：今雨もりしているところは、修繕を計画しています。子どもたちが学習をしたり、防災機能としてはたしていけないところは、きちんと対応していかなければいけないと考えています。これからの統合を考えながら、整備を考えたいと思います。ベニヤ板は、シックハウスのお子さんがいて、塗料を塗ることができなくて、ベニヤ板で対応させていただいたという経緯があ

ります。学習する環境として、整えていかなければいけないとは思っていますので、必要な所は順次対応していきたいと思えます。

越地地区住民：今回の案を年内にまとめたいとおっしゃっていたと思うのですが、何回も意見交換会をする度にたくさんの意見が出て、これをあと2か月でまとめるのは無理だと思いますので、この期限というのも必ず守らなければいけないというものではないと思えますので、じっくりとより良い教育環境を整えていただくために、より良いものを考えていただくためには、2か月というのは短いと感じましたので、無理をしないで、ゆっくりと考えていただいてもいいと保護者としては考えています。計画でいくと、12年後に一貫校ということですが、元の発端は一色小学校の単級問題となっていたと思うのですが、そうすると一色小の単級問題は12年間解決されません。まずは、単級問題を解決することを先行していくべきだと思います。

教育長：今年度を目標にまとめていきたいと考えていましたが、決して今年中にまとめなければならないというものではありません。一色小学校の単級化の問題ですが、最初は学区よりもコミュニティをとという考えで、この案を出させていただきました。今この場や今までの意見交換会で、学区の再編を考えるべきだというご意見をいただきました。その意見を踏まえて、例えば山西小学校の学区から一色小学校に行っていくなど、これから動く可能性のある地区に丁寧な説明をしていく必要があるので、2回目の意見交換会では色々な案を出させていただきたいと思っています。

元町南地区住民：先生の負担が、部活動で土日がないとか、残業もすごいという話を聞きます。教員同士の密接な情報交換だとか、子どもと向き合う時間を増やそうというお考えだと思いますが、先生の負担が物凄くかかってしまうだろうなというのが心配です。

指導主事：先生方の負担が増えない工夫というのを考えていて、中学校の先生が小学校でも授業をすれば、中学校の先生の負担が増えるのではないかとか、もちろん、新しいことを行えば負担は増えます。しかし、例えば中学校の先生だけが部活を行っていた部活を小学校の先生がおこなえば、部活の時間が空いて、その間に教材を研究する時間を作るだとか、今、色々なシミュレーションを行っています。校務文書を小中で共同で行ったりするなど、負担が減るような工夫をしている他の先行事例などを聞きながら、考えています。

教育長：小学校の教員が中学生まで見る事が出来、生徒指導を9年間通して見通していく事が出来ます。小学校の先生と中学校の先生が協力して、チーム学校して支援する事が出来ます。また、小学校の先生でも部活をやりたいと思っている先生方もいらっしゃいますので、そういう人に部活を見てもらい、小学校の高学年から部活をすることも出来るかと考えています。小学校の先生にとってもやりがいがあると思いますし、中学校の先生の仕事の軽減にもつながります。また、土日のどちらかを休む、平日も1日以上休業日を設けるとい部活動のガイドラインを作っています。そして、生徒指導の部分に小学校の先生の力を入れ、支援教育についても、中学校の先生は教科を持っているので、自分の教科を教えながら支援をしていくことになるので、支援級の子どもにとっては、教えてくれる先生が変わってしまうこととなります。小学校は同じ先生が教えてくれるので、一貫してその子にあった支援をしやすい状況が出来ています。そこにも小学校の先生の力を借りることが出来れば、一人ひとりにあった支援につながっていくと考えています。また、個別支援計画を小学校から中学校に引き継いでその子が社会に出て行くための、支援が出来るように9年間の教育を行って行けたらと思っています。また、小学校と中学校で同じことを行っている、例えばPTA活動なども1つにすることが出来ると考えています。

越地地区住民：小中一貫にしてしまうと、小学校の担任の先生がいなくなってしまうのでしょうか。

教育長：担任の先生はいます。教科担任制を行いたいということで、担任を失くすという事ではありません。

越地地区住民：実質、先生が忙しくて朝の会と帰りの会だけしか会えないという風になってしまうのでしょうか。

教育長：小学校は、全ての教科を教科担任制にするのは無理だと思います。例えば、英語や理科、算数などは中学校の先生の力を使ってもっといい授業を行う事が出来るのではないかとこのことを研究しています。

越地地区住民：基本的には6年生までは担任の先生が持つのでしょうか。

教育長：もちろん、担任の先生はいます。高学年は教科担任制がいいのではないかと考えていて、例えば中学校の美術の先生に教えてもらい、こういう指導

をすると、もっといいよというような助言をしてもらおうと、より良い作品が作れるのではないかというようなことを思っています。

越地地区住民：小学校の担任の先生は小学校の免許を持っている先生が担任を持つのでしょうか。

教育長：もちろんです。

越地地区住民：中学校の先生が、仮免許でみるというようなことはあるのでしょうか。

教育長：今のところ、それは考えていません。義務教育学校だと、小学校と中学校の両方の免許を持っている必要があるのですが、当面の間は持っていなくても大丈夫ということです。ですから、小学校の担任がいなくなるということはありません。中学校も学級担任を置きます。中学校は、自分の教科と道徳・総合の時間を担任の先生が持つこととなります。

越地地区住民：二宮の先生は二宮の中を行ったり来たりしていて、小中一貫になると、あまり新しい先生が来たりしないのではないのでしょうか。

教育長：広域人事交流という中管内での異動や、教頭先生の人事交流、総合教育センターへの派遣、民間企業への派遣や養護学校への派遣などもあります。

越地地区住民：小中一貫教育になることによって、他の市町村から入りにくくなるということはないのでしょうか。

教育長：人員を確保するために、新採用を取ったり、交流のお願いなども県に要請をしています。

上町地区住民：二宮小学校がとても近いのですが、帰ってくるまではとても心配です。ニュースでも色々な事件が報道されていて、安全の配慮をして欲しいと思います。挨拶をするんだよという話を子どもにはするのですが、赤ちゃんを連れていくと、声を掛けられることはあるのですが、小学生を連れてても、声をかけられることは少ないです。子どもから話しかけることがないので、声を掛けられないのかと思いますので、こちらから積極的に地域の方と係わるようになればいいかなと思いました。

上町地区住民：場所の問題はすごく大きな問題だと思いますし、令和12年に始まるという予定がどういう風に具体的に進行していくのかというのが心配なのと、学校が再編されるのは、学校の生活や勉強が大きく環境によって変わるのが不安で、学業が大事な時に、学校がバタバタしてしまったり、通うところが変わるとか、先生が変わるのが一番心配です。十分に計画していても、一番影響を受けるのは子どもなので、その部分が一番心配です。

中里地区住民：子どもにとってのメリットデメリットを説明していただきたいです。

指導主事：例えば、いじめ問題の減少などは、ずっと同じ先生が9年間を通して見てくれるというのは、大きいと思います。また、異年齢の子どもたちがいるということは、お兄さんお姉さんがいるところでは、悪いことがしにくいと思いますし、小さな子がいるところでは、いいお兄さんお姉さんでいようと思うという作用が働いて、いじめが減少しているのだと思います。自己肯定感というものも、自分が認められていると子ども自身が思うことが必要だと思います。そういった意味でも9年間通って見ている先生がいるというのはメリットだと思います。